

今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月22日～

先週は日銀が金利を0.25%引き上げて、日本の政策金利は0.75%となりました。

30年ぶりの高水準となりましたが1%以下の金利ということで、まだまだ世界的に見ると低金利の状態です。

日本の実質金利(名目金利から物価上昇率等を差し引いた金利)は、マイナスに沈んだままで金融緩和的な状況が続いている。

来年も利上げを続ける可能性はありますが、次の利上げがいつになるのか、最終的に日本の政策金利がどの程度の水準になっていくのかわかりません。

長期金利(10年物国債利回り)は、一時2%を超える動きとなり、金利は少しずつですが上昇しています。

日銀の政策が円安とインフレを止めることができるかどうかも重要です。

今回は、今後の追加利上げに関する方針を明確に示さなかったことで、利上げ発表後は円安が加速しています。

また、「実際の中立金利(景気を刺激も抑制もしない中立的な金利水準)がどこに位置するのかは手探りで見ていかなければいけない」と植田・日銀総裁は言っていますが、日本の金利をどのようにコントロールしていくのか見通しがよくわかりません。

このためマーケットでは今後も円安トライが続く可能性があります。

高市政権の財政拡張路線に対して財政悪化を懸念する声が強まれば円が売られやすくなります。

ただし、ドル／円が160円あたりまで上昇すると、今度は為替介入を警戒する動きが出て上値が重くなってしまうそうです。

日米の金利差は今後も縮小していく方向のため160円を超えての円安が進んでいくかどうかは疑わしい状況です。

ドル／円の月足や週足での上昇がどこまで続くか見極めたいです。

今週は米国でGDPの発表などがあります。

また、経済指標以外にもトランプ関税を巡る違憲裁判やエブスタイン文書に関するニュースなど政治的な動きにも目を向けておきたいです。

24～26日はクリスマス休暇などで休場になる国が多いです。

クリスマスから年末・年始にかけては取引が減りますが突発的なニュースで値が大きく動くことがあるので、リスクコントロールはしっかりしていきたいです。

● テクニカルで見た重要なポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？

先週は週末に大きく上昇し、11月後半につけた157.9円あたりの高値でマーケットが終了しています。158円を超えると今年1月初めにつけた高値158.85円あたりがターゲットになります。

ここも超えれば160円トライの動きになりそうです。

下値は157円を割り込んでくると再度155円台あたりまで下がる可能性があります。

155.3円あたりで下げる場合は堅調な動きが続きそうですが、155円割れとなると円安の動きは弱まる可能性があります。

156-159円あたりのレンジを意識しながら取引していきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も週末にかけて大きく上昇しているペアが多く、ユーロは184円台まで上昇しています。

ポンドも211円、スイスフランも198円まで上昇しています。

欧州系通貨は史上最高値更新となっていますが、この流れが来年も続くかどうか慎重に見ていきたいです。

その他のほとんどのペアも上昇が続いているため週明けも上昇が続くかどうかがポイントです。

プラチナとの連動が強い南アフリカランドは、プラチナが上昇しているため強い動きです。

今後、ドル/円以上にクロス円の上昇が強まる可能性もあり、週足・月足チャートもしっかり見ながら取引していきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、植田・日銀総裁発言、12月東京都区部消費者物価指数、11月鉱工業生産などがあります。

米国では10月耐久財受注、7-9月期GDP(速報値)、11月鉱工業生産、12月リッチモンド連銀製造業指数、12月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、前週分新規失業保険申請件数などが発表されます。

欧州では特に指標発表はありません。

ほかには、英国で7-9月期GDP(改定値)、カナダで10月GDPなどがあります。